

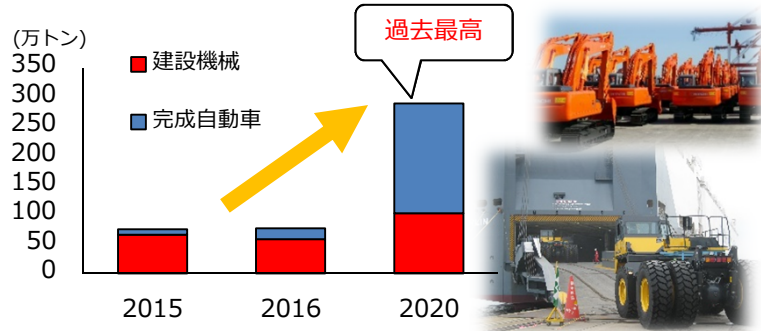
新たな水深12m岸壁の供用開始により海上輸送の需要増加に対応

— 茨城港常陸那珂港区 (ひたちなか市) —

近年、建設機械や完成自動車の取扱量が増加している中、中央ふ頭地区に新たな水深12m岸壁 (270m) が令和3年2月20日に供用を開始しました。

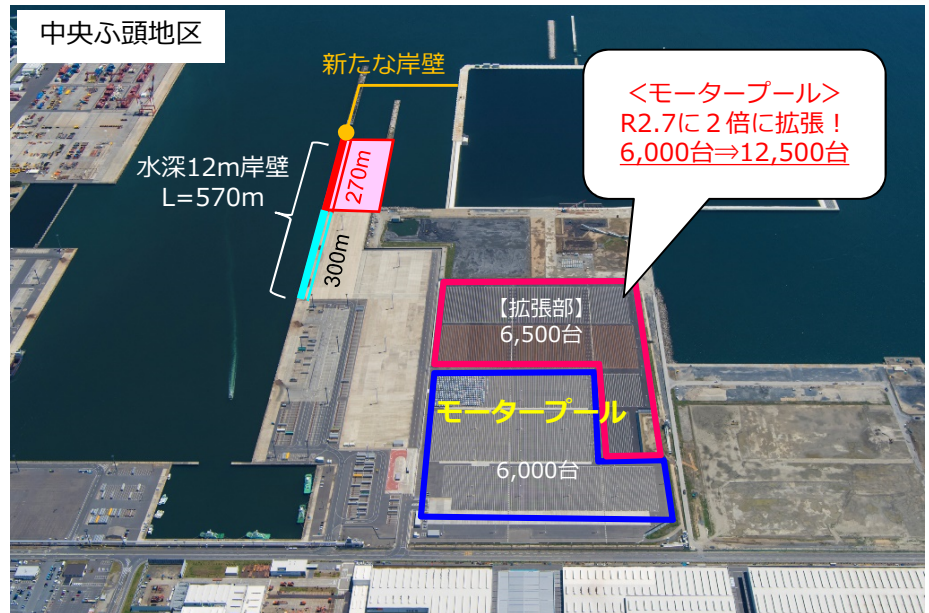


◆建設機械及び完成自動車の取扱貨物量 (輸出)



水深12m岸壁は、既設岸壁と併せて570mとなり、大型RORO船*や自動車専用船の2隻同時接岸が可能となりました。

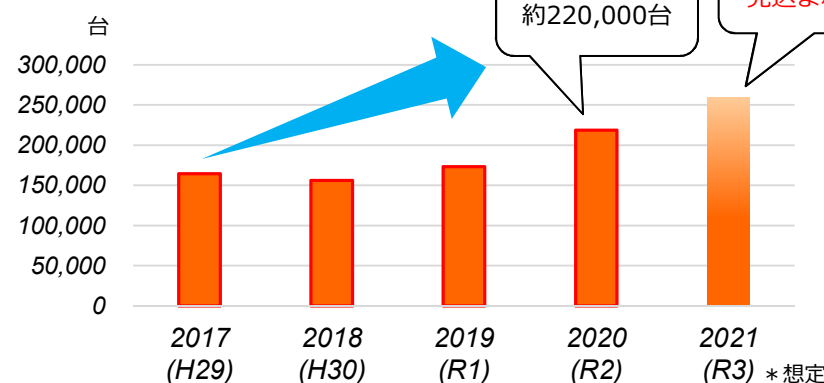
2倍に拡張された背後のモータープールと併せて、一度に大量の輸出が行えるようになります。



*「RORO船」 roll on roll off ship
貨物をトラックなどで積み卸すために、船尾や船側にゲートがある船舶。

完成自動車や建設機械の需要の増加に対応した取扱能力が拡大し、物流効率化 (輸送コスト削減) や生産性の向上が期待されます。

◆完成自動車の輸出台数



新たな岸壁に初めて接岸した自動車専用船
約1,600台の完成自動車が北米向けに輸出されました
(R3.2.24撮影 国土交通省提供)